

平成24年度第2回流山市生涯学習審議会会議録（要旨）

1 日時

平成24年10月11日（木）14時00分～16時00分

2 場所

中央図書館 2階 会議室

3 議事

（1）「生涯学習事業の検証と今後の展望等について」

（2）その他

4 出席委員

小林会長 佐々木副会長 生天目委員 岡林委員 濱田委員

辻野委員 丹野委員 石川委員 山口委員

5 欠席委員

大橋委員 川上委員 宮本委員 山中委員

6 事務局

友金生涯学習部長 直井生涯学習部次長兼生涯学習課長

戸部公民館長 鈴木図書・博物館長

小栗図書・博物館係長 松本公民館次長

増田生涯学習課長補佐 渋谷生涯学習課長補佐 菊本係長

7 傍聴者

なし

8 会議録

14：00 資料確認

（小林議長）

ソフト面について、ここ3年間でどのようなことが行われ、どのようになっているかを事務局の説明をお願いします。

（事務局）

資料に基づき説明。

（小林議長）

生涯学習課では、新しく議題になった人材活用、昨年議論しました青

少年育成の関係、まだあまり議論されていない文化・芸術の関係、文科省の意向が変わって来たことと、人口の推移に伴い必要とされるスポーツに関連する健康の問題などについての説明がされました。

公民館は、市内の各公民館で、どういうプログラムを提供して行くかという事と外部利用の大学等の連携など2つの視点に絞って説明を頂きました。

図書館については、図書導入収集方針の問題、図書館の奉仕事業についての説明がありました。

博物館については、利用を中心に説明がありました。

お金の説明から事業の規模が分かったのではないのでしょうか。

以上の事務局の説明から、流山市が3年間やって来た、ソフト面の事業についてご意見を頂きたい。

(濱田委員)

広範囲の活動が行われている中でも継続は大事なんだと感じ、波が有りつつも、継続して行くことは必要だと強く思いました。

話が変わりますが、江戸川大学では全体の業務の見直しを考えています。保育園や幼稚園を造ること、サテライトセンターのおおたかの森をクローズして、やり方を変えて行く事を考えているところです。

大学のキャンパスでは多くは出来ないの、流山市の生涯学習との連携を深めていくことが今後の検討課題であると思う。

(小林議長)

サテライトセンターでは、主に成人を対象にしたプログラムが展開されて来ている。

運営が厳しくなって来たのは、成人対象のプログラムに人気が無くなって来たのか、プログラムの設定によっては、まだ行けるのか。受講者の動向はどうですか。

(濱田委員)

公開講座は、大規模な大学では多様なプログラムが組めるが、小規模な大学ではなかなか出来ない。

段階世代のシルバー層が教育のメインで、ターゲットベースになると

ころが広げられない。

カルチャーセンターの方向になると、若い層にも広げられるが、大学がやって行く中で本当にそれで良いのかと思う。

一方、保育園、幼稚園を造ることになると、学部、学科も検討が進み、全体に授業のスリム化が図られ仕分けがし易くなる。

(小林議長)

シルバーに関しては、ゆうゆう大学は増やすのですか。

(事務局)

人数的には横ばいです。

(小林議長)

入れ物がいっぱい、横ばいなのか。手を挙げる人が減ってきているのか。

(事務局)

高齢者の人口は増えてきているが、キャパの問題と運営の問題です。ゆうゆう大学は、2年生の講座で、人づくり、仲間づくりなど交流を重視している。1班9名で班活動とか学園活動、いろいろやっています。

(濱田委員)

手間暇については。

(事務局)

生涯学習専門員が学園に1人専任している。

(小林議長)

高齢者の需要が無い訳でないが、場所代、講座費用が高い、手間暇の問題を考えると、何処かに改正点が有ると思う。

(濱田委員)

手間暇の問題が大きくなって来ているのかな。

(辻野委員)

生涯学習課重点事業の10項目の中で、流山市の特徴として、これだけは他市と違うという重点施策はありますか。

(事務局)

生涯学習課の10項目の中で、他市とは違うと自負しているのは、7、8番です。

7番の芸術関係は、市民と協働で行い手応えを感じている。

8番のみんなのスポーツ活動推進では、コミュニティスポーツリーダー一会や周囲の人に支えられて続いている。

行政指導ではなく、市民との協働の部分は他市と異なっていると思う。

(小林議長)

問題点はありますか。7、8番は、今は上手くいっている？

(事務局)

団体の世代交代がうまくいっていない。青少年育成会や芸術・文化団体の人気があるものの、リピーターが多いので、そこは気をつけないと、職員も対象者も高齢化してきている。

若い力が必要となって来た今、大学との連携で単位が取れるプログラムが出来たらと考えている。

(丹野委員)

スポーツに関してですが、体育協会の名前が聞かれないのですが、どう言う連携をしているのか教えて下さい。

(事務局)

体育協会は21種目の団体で構成されて、スポーツの競技力向上が主な活動です。

全国的に体育協会は、スポーツの向上の活動を担っているが、流山市は他市と違って、体育協会が民間団体なので、自分たちの力で大会運営、色々な活動を広めている。市としては、補助金で多少の援助をしている。

スポーツには、競技力の向上に係るところと健康増進、楽しむスポー

ツが有りますが、どちらかと言うと行政としては、後者の方で市民に携わっている。

(丹野委員)

個人的には、スポーツ振興に触れないのはもったいないと思う。スポーツ振興法はそれを想定しているのではないのでしょうか。

図書館についてですが、図書の冊数でタイトルでの冊数がどうなっているか。

(事務局)

同じタイトルで5冊あっても1点としている。

(丹野委員)

図書館に携わっていた時、横浜市立図書館が日本で100万冊といていた。それと比べると、財政、人口から言うと45万冊は良い数字だと思います。

(事務局)

参考ですが、近隣市の図書購入費ですが、柏市5,900万円、松戸市6,000万円、野田市3,000万円、我孫子市2,300万円、流山市3,250万円です。人口規模に応じた予算になっている。

(石川委員)

博物館の能登展を見に行きました。土曜か日曜日でしたが、人が少なく、せっかく考えて展示されているにもったいないと思いました。

先の説明で、博物館の友の会等で研究者を入れて市民の協力を得て企画展がなされているとのことですが、研究者の目線ではなく、市民のニーズを考えた企画展を。

例えば、能登展では、郷土料理など身近なところで料理教室につなげたりすると良いと思う。

ちょっと昔の暮らしについても、小学校の図書館の展示にも手を加えて、子ども達が勉強した後に役立つと思うので、一歩踏み出して見てはどうでしょうか。

研究者の立場でなく、一般市民のニーズに立って企画展をやってはと
思いました。

芸術・文化で、音楽コンサートは、実行委員会制でチケットの売り上
げだけで運営しているため頭を抱えているとのことですが、市民対象だ
けでなく、他市からの集客も出来るように手立てを考えると良いと思
います。

公民館事業で、家庭教育学級に共働き等で参加が少ないことから、お
父さんや祖父母を対象とした育児講座が設けられ、ライフスタイルの変
化に合わせ講座を拡大して行く考えは良いと思います。

本当は来て欲しい人が来ないと言うのは、具体的にどのような人です
か。

(事務局)

家庭教育学級は、学校、PTA、公民館で話し合い、学校、公民館を
会場にしている。

昔は、回数も多く、参加者も多かったが、最近は回数も減り、内容に
もよるが参加者も減って来ている傾向にある。

社会情勢の中で色々な事件が起きている現状の中で、家庭教育は重要
なので多くの人に参加してもらいたい。

(生天目委員)

昨年、西初石地区の小・中学校合同で開催しました家庭教育学級は、
内容が非常に良く、子育てに悩んでいる母親を中心にしたものでした。

講師の方も良い方で、来てもらって良かったと思いました。

実際は市の予算上、講師、謝礼などで難しい点も有ると思います。

学校では、PTAの方、運営委員の方を通じて家庭にお知らせしてい
ますが、仕事を持つ人、時間帯等で参加者が集まるのが難しいと思う。

(小林議長)

市の方では、学校に通うお子さんを抱えている親の悩みを解決するよ
うなプログラムに対しての要望はありますか。

(生天目委員)

P T A 等と話し合っていて決めています。

(事務局)

学習のテーマは、P T Aの方、学校の教頭先生、公民館の専門員の3者間で内容を話し合っていて決めている。

(岡林委員)

中学校では、家庭教育学級のような講座に人を集める事は難しい。

P T Aの方も公民館の方も一生懸命ですが、なかなか人が集まりません。

ポイントは、予算が少なく、安価で魅力ある講師が呼べないことなどが人の集まらない要因となっている。公民館の方々も頭を悩ませていると思います。

(事務局)

予算は1校15,000円です。

(岡林委員)

P T Aの方も悩んでしまいます。学校もお金が無いので私自身、全面的に協力しています。

ここは、小学校と違うと言うことを認識していただきたい。

(事務局)

予算不足で財布は1つしか無いので、努力して行きます。

(岡林委員)

中学校が8校あるので、1年に1校で開催し、開催校に他校の中学校のP T Aの方々が参加して行く形も良いのではないのでしょうか。

(小林議長)

有料の講習会を開いて、余ったお金をニーズに応じて配分する仕組みは可能ですか。

(事務局)

財務規則上問題があります。受講料を取るとなると、条例、規則に入れないといけない。教材費については、入れてある。

受講料の名目では取っていないし、近隣市町でも取っていない。

教育の均衡で、お金が払える人、払えない人が出来るので無料でやっている。

有料の講演会などは、実行委員会形式でやっていますので、受講料はそのまま講師の先生に行きます。

(小林議長)

学校の講演会も実行委員会制でやれば良いのでは。

(事務局)

開設形態が近隣市とも違いますが、ここでアピールしたいのですが、学校、P T A，公民館の3者でずっとやって来ているので、予算を増やす努力をしますので、このまま継続して行きたい。

(小林議長)

公民館がリーダーシップ取って、実行委員会を作るのもいけないですか。

(事務局)

国の方でも教育基本法改正の部分で家庭教育が謳われている。

社会面を騒がす悲しい事件、痛ましい事件など、社会教育の中での家庭教育の役割は重要となっている。

学校、P T A，公民館の連携の下、積極的にやって行きたい。

(小林議長)

新聞で、流山の著名人で野球の漫画が出ていました。あの方を色々な計画に巻き込んで行くことを考えていますか。

(事務局)

青年漫画の雑誌でしたので、教育委員会としては関わって来なかった

のですが、この夏単行本として出版されました。

流山市が舞台になっていることもあって、広報で人物紹介をしました。

生涯学習センターで、モデルになったお店や江戸川の土手などがあり、マンガの原画、実写とマンガを並べるなどをして行こうと思います。

能登展のところで、展示と郷土料理と有りましたが、センターには、喫茶店があるので、モデルとなっている和菓子屋さんが、許可を取ってマスコットのお饅頭を作って販売して行くことを考えています。

予算の無い事業ですが、生涯学習部と産業振興部、総合政策部が一緒になって今計画を進めています。

(石川委員)

図書館にその単行本を入れられますか。

(事務局)

漫画は置けません。

(山口委員)

地域人材活用の「まちの先生」のところで、指導者の引き継ぎが上手くいかず、若い人の連携が進んでいない。日本の何処でも起きている問題です。

まちの先生の年齢層、どのような方々が興味を持ち参加して行こうと思ったのか。今後どんなアピールをしたら、それに応募される方がいるのか。

体育協会で、競技の記録向上のために力を貸してくれるボランティアの方に、健康志向の人たちのための指導者のスキルアップが出来れば、そこから、お互いのコミュニケーションがとれ、何か違うものが生れてくると思います。しかし、現実には、大きな隔たりを感じます。

競技者と社会体育をやる人の考え方、目指すものが違うので、そのあたりの交流を如何に図るのか、考えて行く必要があるのではないかと思う。

オリンピックのメダリスト達が地元に戻り、技術の底辺拡大に力を貸している。社会人の健康体操の指導者の育成にも手助けが欲しい。

ゆうゆう大学の受講者の年齢層が何を求めているのか、今、団塊の世

代が地域に戻って来ている時代、先の授業に転換して行けるような、例えば、成人後見人の制度などの今後必要となって来る法律、様々な機構を知っている人の活用で、もっと授業に広がりが見えてくると思います。

(小林議長)

競技とヘルスの考え方が違って、もっとコミュニケーションを取れば良いとのお話ですが、両者がこんなことやればコミュニケーションがとれるのではと、具体的な提案がありますか。

(山口委員)

その情報が少ない。

(小林議長)

スポーツ推進委員はどういうものですか。

(山口委員)

私自信は、競技ではないです。限られた種目ですが競技の方もいます。

(小林議長)

流山市の制度では、スポーツ推進委員の方々が、一番コミュニケーションを取るポジション的に近いと思う。

(山口委員)

そうですね。事業的に考えて行かなければならないですね。

(佐々木副議長)

生涯学習課は文化会館の活性化の法との関係で、単に団体の発表の場を設けてやること以外に、行政として付け加えることがあるのか。

(事務局)

質の高い文化・芸術を招へいして、そういうものを鑑賞する場を提供しなさいというものです。

国の仕分で、文化・芸術の補助金が減って来ているという背景もある

と思う。

一流で質の高いものの鑑賞する場を、民間等々と協働で提供して行きなさいという法律が成立している。

(佐々木副議長)

育てると言う感じで行くと、音楽協会、文化協会との兼ね合いを相当良くもっていかないとならないですね。

市内の芸術関係の協会にアプローチするのですか。

(事務局)

従来からやってはいます。今まで、市の補助金を出すとか場所の提供をしてきました。

市の補助金も狭まって来ていますので、民間の助成金があることを団体に紹介している。実際活用している団体もあります。

(佐々木副議長)

相当上手くノウハウを知らないと、動きが取れないですね。

(事務局)

急には出来ないと思います。

(小林議長)

生涯学習課と学校教育との比較で見ると、小学校と中学校と言うのは、国のお金で無料です。高校から上は、自分が勉強したいと身銭を切って勉強する。

生涯学習は、全部行政が提供するただのプログラムで良いのか。そうではない、カテゴリーはいっぱいあります。

行政側が提供するのには、市民がこれは自分が面白いな、身銭を切っても上に伸びたいと意志付けする所までが無料。それからあと自分の学習すべき方向へ一歩踏み込んだ学習は、無料のプログラムは無しの方に持っていくのが良いのではないかと考えています。

どのようなプログラムが一番取り易いか分からないが、流山市の生涯学習は学習者が自分たちの意志で学習を続けたいと興味を持つところま

で、流山市が無料のプログラムを提供して引っ張って行く、それから後は、学習者が身銭を切ってやって行く、これが生涯学習だとなれば嬉しい。

予算が無いと聞いて思ったことです。

どのようなプログラムを作れば人がついて来るかは、これから考えることですが。

(生天目委員)

基本的にそう有るべきだと思います。そうしないと、公共でやるのが、どこまで底辺を広げ税金でやっていくものか。

一方、誰でも参加出来るのは、収入が無くても勉強がしたい人がいれば、積極的に参加出来るように公共団体が与える役割があります。

公民館講座で受講料を取らないことは、なるほどと思いました。

それをやると差別に当たってしまう。公共機関と民間のあり方のバランスが難しいと思う。

青少年相談員関係については、今回話しを聴けて良かったです。

学校を支えて、交通安全、補導、浄化運動など、学校の中に入るのではなく、学校の外側で、学校を守ってくれる環境を作って頂いてありがたいと思っています。

生涯学習の仕事かどうか、継続して頂くと助かります。

(丹野委員)

身銭を切って学ぶことですが、ここでのものは無料でないと誰も参加しないと思う。

競技や文化・芸術はプロ一歩手前の物は有料でも心配ない。

流山に来て、なんとなく学んでいることが心地よく感じて空気見たいなので、このレベルは無料でいいと思う。

図書館の電子図書館は将来どうなのか、有料でやっても良いと思う。

図書館法では、無料と書いて有るので、どうなのか。

(濱田委員)

有料、無料と言えば、柏市民大学は有料です。

震災等があったので、防災について勉強しようと言うことで、受講生

20人が4グループに分かれて柏市の防災をどうするか勉強し、卒論を出す形で、終わると柏市の行政に組み入れる。

生涯学習課でなく、協働推進課に市民と協働でして行くことで仕掛けられている。生涯学習の概念が少しずれている。

お金の負担がかかるのが、少し不安です。お金も取る、知恵も出せ、汗もかけ、これも一つの新しい動きとして見て行く必要があると思います。

(辻野委員)

今、人口が減っている中で、流山市は着実に人が増えている。

市として人が増えている事は、活性化している訳ですが、その中で色々活動をやっている団体が、人数が集まらない、後継者がいないなど様々な問題があって、あまり活性化していない。

今回、備考欄に課題等が記載されていましたが、現状維持で継続していくのか、ステップアップして活性化する目標を持ちながら、従前どおり継続して行くのかが欠けているような気がします。

(事務局)

事務事業を出した中で、後継者不足が次の世代にどうやって繋げていくかは大きな問題です。それぞれ課題があると思うので、それを解決しながらステップアップして行きたいと思います。

(山口委員)

ステップアップする時にお金をとって良いのではないかな。

意識の変革を何処かでする時、専門的な知識を持った方々を活かす時、出来るだけ安価で、出来れば無料でと考えることがネックになるなら、違う視点から捉えても良いのではないかと思います。

今後、そうして行かないと若い人がついてこないと感じました。

(岡林委員)

市の博物館は、有料ですか。無料ですよ。

これ有料になったら大変になると思います。例え50円でも。

5回も企画展をやることは、大変敬意を表します。年1回でも少ない

予算でやることの大変さは、経験していますので分かります。

研究者のための博物館は非常に少ないと思います。一般市民対象にターゲットは誰なのか、十分意識して提供していると思います。そのような中でも、常設の展示にしても企画展にしてもなかなか入場者が少ないのが現状です。

博物館、生涯学習部の皆さんに申し上げたい、入場者数で評価しないで欲しいと思います。そここのところをはっきりさせないと。

この様なものを伝えたい、本来は学術的な狙いがあるので、例えば、漫画の陳列が博物館だとなると、そう言うことは無いと思います。

市民ニーズと言う話がありましたが、ニーズに応えるのも大事ですが、ニーズを育てる意味で、博物館はそういうミッションを持っていると思います。

青少年健全育成に係ることで、地域、学校、自分の学校のPTAの方々も動員することがあります。それをやることによって、流山市は他市に比べて良い姿を小中学校の中に具現化しています。

地域ぐるみの教育と20年、30年言われてきました。流山市が誇って良いと思います。市民みんなが集まって実現していると感じます。

お金が無い無いと言われますが、例えば中村紘子さんのコンサートに、820人が入場したことは、CDが沢山売れているとかではなく、魅かれるものが有るから多くの方が来ると思います。

150万円であれだけのコンサートが、1,000人の対象でも開けると言うことです。

今、コストパフォーマンスなどの観点から事業の検討が求められていますが、時には、学校教育、生涯教育は無駄が有って良いと思います。

(佐々木副議長)

予算に係ることは、何処かに投書すれば出来るのでしょうか。

自分達の税金を何処に使って欲しいか訴えるところは何処か。

そういう面で、お互いにやっ行って行かないと上手くいかないと思う。

(事務局)

陳情、請願があり、これをやって欲しいと言う陳情、請願はあります。

なにかの機会に、いろんな所で言って頂くことが良いと思います。

(佐々木副議長)

学校のここを良くしてもらいたい、自治会のここをこうしてもらいたいと重点になることには予算が必要になることもある。

補導の関係も無料でやるのではなく、ある程度補助しないといけない。訴える方法がないのか。

(事務局)

限りある予算の中でやって行くので、事務局が訴えて行かなくてはいけないと思っています。

(石川委員)

市民参加条例が締結されたので、陳情等の形でしか議会に訴えられなかったのが、提案と言う形で出来るようになったと聞いています。

ただ予算に関することは、全て議会を通すので、議会にも働きかける必要があると思います。

(小林議長)

前の方からずっと見て行くと、特に突出しているところは無いが、ハードである体育館建替えの様に、この期間にやらなければならない事業は予算がつきます。

経常的なプログラムは、大体前例に倣って流れている感じがします。

(事務局)

現状維持か、削減です。

(生天目委員)

流山市が独自でやって行くこともあります。野田市と流山市が提案して企画展をやるとか、柏市など市民講座等を2市などでやると安価で効果があり、中身の濃い物になります。

そういうものをもっと発信すべきだと思います。

県行政がやるべきものと、市行政が重なるものが多いと思うので、市でやるべきものが決まっていれば良いと思います。

例えば、陸上競技場が近くの柏の葉に有るのに、流山に造る必要が有

るかの議論など、そういう物が共有出来れば有効だと思う。

(小林議長)

皆様に色々な観点からご意見を頂きまして、ありがとうございました。

今日の資料の継続については、流れとして決まっています。

今日のご意見を参考にして頂いて、中身を検討するか、ウエイトを付けるか事務局でご検討をお願いします。

(事務局)

図書館の夏季月曜開館と冬季夜間開館短縮についてのお知らせ

(小林議長)

ユーザーの要求に基づいた提案ですので、良いと思います。

今日の議題は終わりました。私達委員の任期が今年で終わります。昨年は、青少年育成、図書館の問題、今年は、3年間の評価と言うことでしたが、2回しか開催出来ませんでした。この2年間を顧みて、委員としてご意見がありましたらお願いいたします。

(濱田委員)

昨年は、スケジュールが合わず出席出来ずに申し訳なかったと思っています。

(丹野委員)

地域の人材活用の話がありましたが、積極的に活性化することも生涯学習です。そういう社会にして行くよう進めて欲しいと思います。

(辻野委員)

委員になって、東葛飾地区の事業に何度か参加し、東葛は一体なんだと感じました。

野田市、柏市、我孫子市等々の連携で、色々な事業が進められ、東葛飾地区がまとまって何かの方向性を見出せるのではと感じました。

(石川委員)

審議委員として、行政の取り組み、生涯学習課の取り組みを詳しく知ることが出来ました。感謝しています。

最近のホームページがリニューアルされましたが、前にまなびピアをもっと分かり易くして欲しいとお願いしました。

子ども、青少年と子どもを対象にしたものは、ジャンル別なっていて前よりは良くなっていますが、低学年、中学年、高学年と年代別に分け、流山に子育て世代が増えて来ているので、新しい方々にどのような講座が有るのか、一目で分かるようにして頂ければと思います。

家庭教育講座も、お父さん、祖父母、お母さんと一緒などの講座が増えて来ています。パパ、ママが参加出来る講座をもう少し見易い分け方が良いと思います。

(山口委員)

なかなか出席出来なくて、今日出席出来て良かったと思っています。

総合体育館の完成を注目しながら、見守って行きたいと思います。

(生天目委員)

生涯学習の仕事が幅広いこと、その市民サービスを知る機会があって驚いています。

今後、団塊の世代である60代が中心になって行く中で、生涯学習のニーズがもっともっと広がることが予想され、同時に中味の充実が求められるのではないかと思います。

一方で、20代、30代の働き盛りの男性の入り口が少ないのでは、このこともどうして行くべきか考える機会が必要だと思います。

(岡林委員)

先ほどの図書館の開館時間については、素晴らしいと思いますが、図書館はコンビニエンスストアとは違うんだという感じで良いと思います。

月曜日休館は、公的施設は何処に行っても通常です。

生涯学習に期待している人は、ある程度心のゆとりのある人、また、生活にゆとりがある人だと思います。ゆとりのない人は、利用したくても出来ない状況かと思っています。

あまりキュウキュウとされず、もっとおおらかな気持ちで、生涯学習を推進して頂ければと思います。

(佐々木副議長)

東葛社会教育連絡協議会の関連で、手賀の丘少年自然の家の運営委員をさせて頂いています。

10数年前と違って、食堂の内容も良くなっていますし、室内の講座、野外の講座でいろいろ考えて頑張っています。機会があれば宣伝をお願いします。

30数年前、流山市の社会教育が進んでいて、近隣の市や町から目標にされていた時代があります。

財政が何処も厳しくなっていますが、他市の目標になるよう頑張っ
て欲しいと思います。

(小林会長)

生涯学習審議会委員は何をするかと言いますと、国の定義は、審議することとなっています。

私自身何年間やっていて、審議会の委員はただ能書きだけ言っているだけで良いのかと疑問に思っています。

流山市の審議会は、自分達の知恵を行政の方にもっと活用してもらえよう踏み込んだ活動をしてほしいと思います。

2年間ありがとうございました。

(事務局)

皆様には2年間に亘り、ご審議、ご意見ありがとうございました。いろいろな励ましの言葉、目から鱗が落ちた思いでした。

予算が無い無いと申し上げましたが、これらの貴重なご意見を肝に銘じて、我々生涯学習部がやるべきことを再確認しながら、予算獲得と、新たな事業に向け頑張っていきたいと思います。

この審議会の任期は、12月14日までで、これが最後の審議会になります。ありがとうございました。

次期の審議員の募集につきましては、10月21日号の「広報ながれやま」で、ご案内いたしますので、応募して頂ければと思います。

今後とも、生涯学習の推進にご支援を賜りますようお願いいたします。

(小林議長)

それではこれで終わらせていただきます。